

平成28年3月11日

都道府県医師会

感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長

小 森 貴

ジカウイルス感染症患者の発生について

今般、日本国内で、ブラジルへの滞在歴がある女性1名が発疹等の症状を示し、国立感染症研究所における検査の結果、ジカウイルス感染症の陽性が確定したことから、厚生労働省より添付のとおりプレスリリースされましたので情報提供いたします。

我が国でジカウイルス感染症患者が発生したのは5例目(全て輸入症例)であり、今回の中南米におけるジカウイルス感染症流行後としては2例目になります。

なお、現在、患者は自宅療養中であり、既に解熱して、状態は安定しているとしております。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知のうえ、郡市区医師会、関係医療機関等に対する情報提供について、ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

平成28年3月11日

【照会先】

厚生労働省健康局結核感染症課

課長 浅沼 一成(内線 2370)

課長補佐 中谷祐貴子(内線 2373)

(代表番号) 03(5253)1111

報道関係者 各位

ジカウイルス感染症患者の発生について

日本国内で、ブラジルへの滞在歴がある女性1名が発疹等の症状を示し、3月10日に医療機関を受診しました。ジカウイルス感染症の疑い事例として医療機関から自治体に届け出があり、本日、国立感染症研究所における検査の結果、ジカウイルス感染症の陽性が確定しました。

我が国でジカウイルス感染症患者が発生したのは5例目(全て輸入症例)であり、今回の中南米におけるジカウイルス感染症流行後としては2例目になります。

この患者に関する情報等は、以下のとおりです。

○ 患者に関する情報

(1) 概要

- ① 年代： 30代
- ② 性別： 女性
- ③ 滞在国： ブラジル（2週間程度滞在。2月22日に帰国）
- ④ 症状： 全身の発疹、発熱（38.2℃）、関節痛。
- ⑤ 蚊の刺咬歴： あり
- ⑥ 居住地： 愛知県

(2) 患者の状況

現在、患者は自宅療養中。発疹及び関節痛の症状が認められるものの、既に解熱して、状態は安定しています。

国民の皆様へのメッセージ

ジカウイルス感染症は、一般に蚊に刺されることによって感染する疾患です。現在、国内は蚊の活動期ではないため、国内で感染が拡大するリスクは極めて低くなっています。

ジカウイルス感染症は一般的に軽症であり、重症化するリスクは極めて低いですが、流行地域へ渡航する場合は、長袖・長ズボンを着用したり、蚊の忌避剤（虫よけスプレー等）を使用したりして、蚊に刺されないように注意してください。特に、妊婦の方は、流行地域への渡航は控えてください。また、性交渉による感染リスクも指摘されており、流行地域から帰国した男性で、妊娠中のパートナーがいる場合は、パートナーの妊娠期間中は、症状の有無にかかわらず、性行為の際にコンドームを使用してください。